
令和 8 年度 事業計画書

令和 8 年 4 月 26 日

一般社団法人 CARNIVAL WORKS



ただ、オモシロイ未来をみんなで創る。

Create an interesting future

たくさんの笑顔で人と人が繋がりあい、

ワクワクする冒険心を掻き立てるような

様々なプロジェクトに私たちは取り組んでいます。

ひとりひとりの心躍るストーリーは世界を変えると信じて。



human

ひととひととが繋がって、新たな価値を生み出す。そしてまちの価値を新たな未来へとつないでいく。まちに生きる全ての人が笑顔になるような、「ひと」がど真ん中にあるまちづくりを行なっていきます。

community

子どもも若い世代も高齢者も。すべての世代に役割があって、出番がある。繋がりの中で人と人が支え合うことのできる「まち」を目指して。

community education

数えきれないまちの課題はみんなで考え、みんなで解決していく。地域の課題をじぶんごとにし、今何ができるか考える。ひとりひとりの可能性を引き出しながら、まち全体がキャンパスになる community education を。

【CARNIVAL WORKS HP】



目的

当法人は、地域との創意工夫と連携のもと、地域魅力向上と地域振興に寄与し、一人でも多くの方がここに住んで良かったと実感してもらえるようなまちづくり・人材育成事業を推進することを目的に、次の事業を行う。

- (1) まちづくりの推進を図る事業
- (2) まちづくりに関する調査研究及びコンサルティング事業
- (3) まちづくりに関する人材育成及び交流促進事業
- (4) 地域振興に寄与する商品・サービスの開発及び販売並びに飲食事業
- (5) まちづくりに関連する地域活動への支援事業
- (6) 公共空間の管理及びマネジメント事業
- (7) まちづくりに関連する他団体からの受託事業
- (8) 地域で子どもの健全育成を支える事業
- (9) その他当法人の目的を達成するために必要な事業



令和8年度事業計画

- (1) 無料塾 FOUR'S STUDIO
- (2) 子ども食堂 KIDS HOME KOORI
- (3) 食と対話で支えるひとり親家庭サポートプログラム
- (4) CHAPTER ONE! (立ち直り支援)
- (5) チャリティカフェ anneau cafe
- (6) GLAMQUET KOORI
- (7) CARNIVAL BAZAAR
- (8) BATON PROJECT
- (9) ピエロ書房 (Pierrot Books)
- (10) 学生ローカルデザイン研究所～まちをあそびつくす!～
- (11) NODA COFFEE
- (12) ばあばとじいじのごはん処
- (13) DRY FLOWER PROJECT
- (14) LAMPE DU CHOCOLAT
- (15) BROWN SUNDAY
- (16) SOCIAL ACTION FES・・・新規
- (17) 空き家を活用した子どもの居場所づくり・・・新規



(1) 無料塾 FOUR'S STUDIO

【目的】ひとり親家庭を含め様々なご家庭を対象に、教育格差をなくし、楽しみながら子どもたちが学ぶことを目的とする子ども食堂の要素も取り入れ、食べること、学ぶこと、そして保護者同士の連携など多様なつながりを提供する。

【事業概要】

- 日時 月1回、17時～19時
- 場所 FOUR'S MARKET
- 対象 未就学児・小学生・中学生（1回20名）
- 講師高校生・大学生のボランティアスタッフ（1回あたり15名）

【連携企業】

- FOUR'S MARKET（運営協力） ■株式会社いちい（運営協力）
- 一般財団法人ふくしま未来研究会 ■一般社団法人福島馬主協会
- 福島大学・福島学院大学・桜の聖母短期大学・福島高校・福島成蹊高校等

～無料塾・子ども食堂動画～



(2) 子ども食堂 KIDS HOME KOORI

【目的】

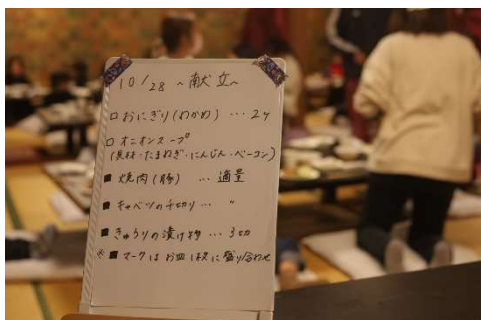
KIDS HOME KOORI とは・・・子ども達の“楽しい”を真ん中に、子ども食堂や無料塾など、子どもの居場所づくりと笑顔あふれるイベントをたくさん開催していきます！桑折町全体が子ども達の HOME になるプロジェクトです！

【事業概要】

- 日時 月1回、17時～19時
- 場所 割烹仙台屋（桑折町）
- 対象 未就学児・小学生・中学生（1回20名）
- 講師高校生・大学生のボランティアスタッフ（1回あたり10名）

【連携企業】

- 株式会社いちい（運営協力）
- 割烹仙台屋（運営協力）
- 桑折町社会福祉協議会（運営協力）



(3) 食と対話で支えるひとり親家庭サポートプログラム

【目的】

ひとり親家庭を中心に毎月1回程度の食の支援とSNSなども活用した相談支援や実際の相談の場を設け、一層見えにくくなっている孤立を防ぎ、SOSを拾える地域づくりを行なう。

【事業概要】

- 日時 月1回程度
- 場所 家庭訪問・無料塾開催時等
- 対象家庭 ひとり親世帯（約30世帯）
- 支援内容 福祉機関と連携した相談支援と食材提供

【連携企業（予定含む）】

- テレビユー福島（物資提供）
- 福島敬香ハイム（相談連携）
- 特定非営利活動法人ビーンズふくしま（福祉連携）
- 福島市子ども食堂NET（福祉連携）
- PALSYSTEM（物資提供）



(4) CHAPTER ONE !

【目的】

非行や罪を犯した青少年そして、生きづらさを抱える人の立ち直りを支えるプロジェクト。更生保護を特別なこととして捉えるのではなく、生きづらさや様々な背景を抱えた青少年の新たなスタートをまち全体で応援できる仕組みを構築していきたい。地域住民、学生、企業、行政機関、学校関係者など、地域社会全体を「支える側」として巻き込むことを目指しながら、更生保護に直接関わる支援者だけでなく、間接的に貢献できる人々も重要な担い手として位置づけ、それぞれの「第1章」を応援できる支援体制を目指していきます。

【事業概要】

- ①ふくしま H@（はあと）ねっと共生展
- ②わらじまつりでの更生保護啓発活動
- ③立ち直り相談支援・職場体験・ボランティア活動



～ふくしま H@（はあと）ねっと共生展動画～



【連携企業】

- 福島刑務所 ■ 福島刑務支所 ■ 福島保護観察所 ■ 福島大学高橋ゼミ
- 福島大学 BBS 会 ■ 福島県立医科大学作業療法学科 ■ おそうじ本舗
- 自立援助ホーム NEXT 小法師 ■ NPO 法人共生社会ふくしま



(5) チャリティカフェ anneau cafe

【目的】

子どもたちの社会課題を提起し、地域と共に考え、寄付（チャリティ）という形で全員参加型のまちを生まだす。1杯のコーヒーを通して、福島に寄付文化を根付かせ、社会課題を解決する仕組みを創出していく。

【事業概要】

社会課題を発信するカフェで、1杯 300円程度のコーヒー等販売し、経費を除いた売り上げを寄付。運営は高校生・大学生が中心となって実施。年1回～2回開催予定。

～anneau café 動画～



【連携企業】

■株式会社いちい（運営協力） ■せいざん（販売・指導） ■福島ガス（販売） ■柏高島屋 ■うすい百貨店 ■女子の暮らし研究所



(6) GLAMQUET KOORI

【目的】

桑折町のグランピング施設の運営管理・施設維持を行うと同時に、子ども達向けの多種多様なイベントなどを企業・学生・地域を巻き込みながら実施。本施設を中心に、学生が戻ってくる町、子育てしやすい町づくりを地域全体で行っていく。またスタッフには多様性（ひとり親家庭等）のある雇用を行い、様々な背景を持つ人が個性を生かしながら全員が輝ける社会を生み出していく。

【事業概要】

施設運営・管理、マルシェ運営、イベント運営



(7) CARNIVAL BAZAAR

【目的】

ワクワクドキドキがあふれる魅惑のバザール！グランケット桑折を拠点に開催される CARNIVAL BAZAAR はハンドメイド作品やかわいい小物はもちろん、キッチンカーもやってくる楽しいイベント！子どもを笑顔にする空間とエコでサステナブルな取り組みにも力を入れています。

子ども支援や子育て支援の啓発活動ブースもあって、地域全体で繋がることのできる温かいイベント！桑折町の豊かな自然に囲まれながら、日常の忙しさをちょっぴり忘れて、楽しいひと時を味わってください！

【事業概要】

年 2 回程度のまちづくりイベント開催

【連携企業（予定含む）】

- 株式会社いちい
- グランケット桑折



(8) BATON PROJECT

【目的】

大切な思い出の詰まった洋服やおもちゃを持ち寄り、次の持ち主へ“バトン”をつなぐ循環型の取り組みです。プロジェクトが目指すのは「世界をたくさんのストーリーで満たすこと」。人から人へと想いを受け継ぐ仕組みを通じて、単なるリユースにとどまらない、温かくサステナブルなコミュニティを築いていきます。物品販売による売上は子ども食堂などへのチャリティに活用され、地域の子どもたちの食事や居場所を支える活動にも貢献しています。

【事業概要】

エスパル福島での年2回のイベントを開催予定

【連携企業】

■エスパル福島



(9) ピエロ書房

【目的】

「ピエロ書房」は、街角を巡る売らない本屋。学生たちが店員・デザイナー・語り手となり、本が持つ物語の魅力を届けています。人と物語が出会い、価値や想いが交差する小さなサーカスのような空間を演出。ページをめくるたびに生まれる一瞬一瞬の感動を大切にしながら、ピエロ書房は今日も新たな場所へと向かいます。学生の主体的な関わりを通して、地域に新しい出会いと感動をもたらす取り組みです。

【事業概要】

地域イベントにて随時活動実施

～ピエロ書房動画～



【連携企業】

■ 西澤書店



(10) 学生ローカルデザイン研究所

～まちをあそびつくす!～

【目的】

学生ローカルデザイン研究所は、「まちをあそびつくす!」を合言葉に、学生が主役となって地域と関わりながら、まちの新しい楽しみ方を見つけていくプロジェクトです。いつもの通りや公園、空き店舗など身近な場所を舞台に、イベントや企画などを通して、まちとの関わり方を少しずつ広げていきます。

「一緒に楽しむ」ことから始まり、人と人、まちと人がゆるやかにつながっていく場を生み出します。学生ならではの自由な発想と行動力を活かし、地域の人たちや行政とも関わりながら、まちを自分ごととして楽しめるつながりを育てていきます。こうした実践を通して生まれる気づきやアイデアを大切にしながら、新しいまちのあり方を探っていきたいと思います。

【事業概要】

- ① 第4回 飯坂温泉 日本一の桃まつり
- ② 学生スタッフ大交流会・大運動会
- ③ 桑折町総合政策課まちづくり事業・SDGs 関連事業
- ④ NOK 株式会社福島事業場 NOK こども食堂～まんまるひろば～
- ⑤ 東北学院大学政策デザイン学科熊沢ゼミこども食堂



⑥ 桑折駅前イルミネーション大作戦

⑦ 東洋大学福祉社会デザイン学部小野ゼミ 宿泊学習

⑧ 福島市こども政策課：福島っ子ベース こども・若者の声を聴かせてください!

【連携企業】

■ 東北学院大学政策デザイン学科熊沢ゼミ

■ 東洋大学福祉社会デザイン学部小野ゼミ

■ 桑折町総合政策課 ■ グランケット桑折 ■ 一味庵 ■ 福島市こども政策課



(11) NODA COFFEE (高校生カフェ)

【目的】

ドトールコーヒーショップ ヨークタウン福島野田店が変貌を遂げ、様々なテーマで人が集うカフェに大変身。毎回企画を変えながら、人と人との繋がりを生み出すあたたかい夜のカフェです！

【事業概要】

年6回程度の様々な講座や高校生カフェを開催

場所：ドトールコーヒーショップヨークタウン福島野田店

【連携企業】

■ドトールコーヒーショップ ■株式会社こんの



(12) ばあばとじいじのごはん処

【目的】

「注文をまちがえる料理店」とは、認知症の人が注文を取り、時に間違えて料理を運ぶことも受け止めるレストランとして2017年に始まった。コンセプトは、「まちがえちゃったけど、ま、いっか」。認知症に対する社会の理解や受容、寛容を広げる試みとして大きな注目を集め、国内外で多数のスピンオフ企画も生まれてきた。CARNIVAL WORKSは大戸屋さんと連携し、ばあばとじいじのごはん処実行委員会を立ち上げ本プロジェクトを実施。

【事業概要】

開催日時：令和8年9月21日（月・祝）セカイアルツハイマーデー

場所：ごはん処大戸屋 福島北矢野目店

【連携企業】

- 株式会社こんの ■ 福島県立医科大学作業療法学科
- 大戸屋北矢野目店 ■ ツクイ福島笹谷・黒岩・福島鎌田



(13) DRY FLOWER PROJECT

【目的】

廃棄寸前の花をアップサイクルし、ドライフラワーにて販売するという過程で、様々な困難を抱えた人たちの社会参画の機会を創出。また販売プロデュースを高校生・大学生が行うことで次世代の人材育成となり、収益は子ども食堂などに寄付することで、寄付文化を根付かせ、地域全体で子ども・若者を支える循環型の地域を生み出す。

【事業概要】

① ロスフラワー回収

廃棄寸前の花の回収を行いドライフラワーにアップサイクルする。SDGsの視点からも地域・企業連携を促進する。

② ドライフラワー製作

ドライフラワーを創るのは子育て世代の母親や児童養護施設等様々な背景を抱えた子どもたち・若者たち。困難を抱える人たちの社会参画の機会を創出。

③ 販売・人材育成

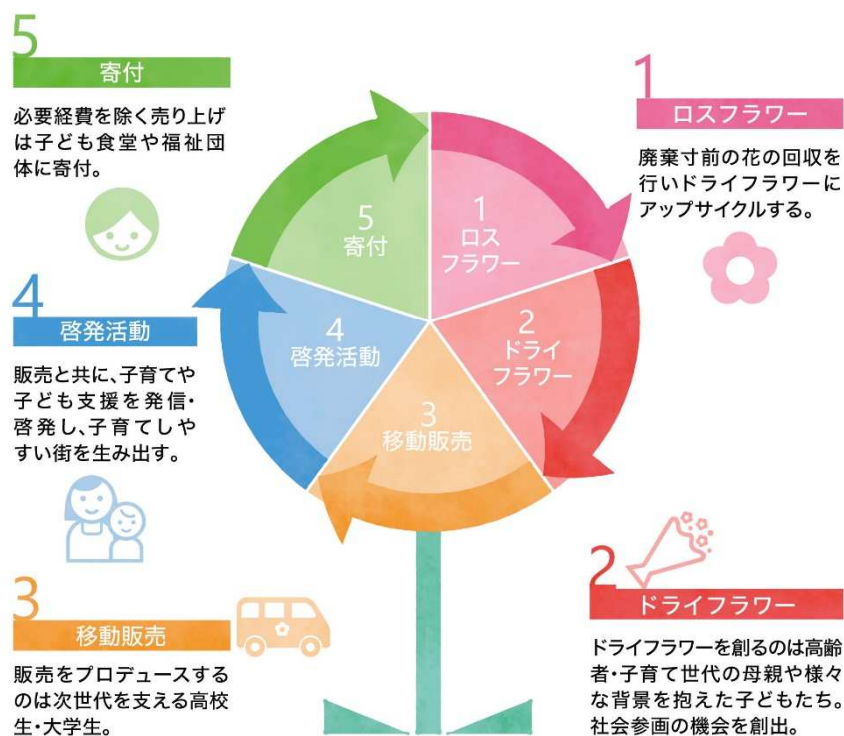
販売をプロデュースするのは次世代を支える高校生・大学生。子ども・若者の社会課題を考える機会を生み出す。

【連携企業】



- あとりえ悠然（ロスフラワー提供）
- 花小屋 aim（ロスフラワー提供・製作指導）
- yuki flower（ロスフラワー提供）
- FOUR'S MARKET（制作場所提供）

DRY FLOWER PROJECT



(14) LAMPE DU CHOCOLAT

【目的】子ども支援チャリティに主眼を置いたチョコレート開発プロジェクト。障がい・引きこもり・フードロス・環境そして、子どもの未来……。製作過程には作業所のメンバーさんや引きこもりを経験したスタッフ。商品には廃棄予定の農作物やサステナビリティな食材を使用。デザインや販売は高校生・大学生たちが関わっていきます。そして、このチョコレートの売り上げの一部は、子どもたちのためにチャリティ。地域全体で社会問題への理解と関心を深める活動を展開。様々な背景を持った方々がチョコレートの製作に携わることで、支援する側される側の枠組みではなく、共に地域を支えるひとりとして、「人と人が」「人と社会が」たくさんつながる契機を生み出すプロジェクト

【連携企業】

- まちなか夢工房 ■ 中野屋菓子舗 ■ いろどりファーム
- ささき牧場カフェ ■ cafe tetote ■ バズクリエイターズ



(15) BROWN SUNDAY

【目的】2024年冬、桑折町に誕生した自然豊かなグランピング施設が、甘美な香りとともに、一日限りのチョコレートの祭典「BROWN SUNDAY」へと変貌。「BROWN SUNDAY」では、甘くて香り豊かなチョコレートがみんなを魅了することはもちろん、参加者を楽しませるイベントが盛りだくさん。そして、本イベントのチョコレートの売り上げの一部は、未来あふれる子どもたちを支援するためにチャリティされます。美味しいチョコレートを楽しみながら、気軽に社会貢献にも参加できるイベントです。



(16) SOCIAL ACTION FES

・・・新規プロジェクト

【目的】

社会課題の解決に向けて取り組む団体や個人の活動を発信・共有する場として

「SOCIAL ACTION FES」を初開催。

「支援する側・される側」という関係を越え、「共に社会をつくる場」としての共感と連携を生み出すことを目指す。本フェスティバルでは、社会福祉・教育・地域づくり・動物保護・子ども支援・就労支援など、さまざまな社会領域におけるアクションが一堂に会し、参加者が「地域で何が起きているか」「自分にできることは何か」を考え、行動につなげる契機とすることを目的とします。

【事業概要】

開催日時：令和8年9月

場所：エスパル福島5階ネクストホール

① 出店・ブース展示による啓発

福祉、教育、地域づくり、動物保護、就労支援など多様な分野の団体によるブース出展を行う。



活動紹介パネル、体験型ワークショップ、物販、相談ブースなどを通じて、来場者が気軽に社会課題や取り組みに触れられる機会を提供する。

② ピッチセッション（発表）の実施

各団体・学校・プロジェクトが5～10分のショートピッチ形式で、自らの活動内容や課題、今後のビジョンを発表する。来場者および他団体との相互理解を深めるとともに、新たな連携や協働の創出を促進する。

③ 多様な主体の交流機会の創出

市民、学生、行政、企業、NPOなど多様な立場の参加者が同じ場に集うことで、「支援する／される」という関係を越えた対話と関係構築の機会を生み出す。

④ 社会課題の可視化と参加機会の提供

地域で起きている課題や取り組みを可視化し、来場者が「自分にできること」を考え、具体的な行動につなげるきっかけを提供する。

【連携企業（予定含む）】

- エスパル福島
- 第一環境株式会社
- 東北労働金庫



(17) 空き家を活用した子どもの居場所づくり

・・・新規プロジェクト

【目的】子どもが地域の中で安心して過ごし、多様な学びと人とのつながりを得られる環境をつくることを目的とする。

近年、不登校や生きづらさを感じる子どもが増加する一方で、フリースクールやオンライン支援は、アクセスの難しさや費用負担などの課題を抱えている。その結果、本来支援が必要な子どもほど、支援にたどり着きにくい状況が生まれている。こうした課題に対し、本プロジェクトでは「子どもを特別な場所に集める」のではなく、「子どもの生活圏の中に学びと居場所をつくる」という考え方のもと、地域の中に分散型の学びの拠点を整備する。

また、地域住民、企業、学生、留学生など多様な主体が関わることで、子どもの育ちを社会全体で支える仕組みの構築を目指す。

さらに、デンマーク教育を参考にしながら、学力だけでなく、安心感、自己肯定感、対話力、主体性、社会性を重視し、子ども一人ひとりが自分らしく学び、社会とつながることができる環境の実現を図る。



【事業概要】

空き家を活用し、地域の中に子どもが日常的に立ち寄れる小規模な学びと居場所の拠点を設置し、以下の機能を包括的に提供する。

① 居場所機能

放課後や日中に子どもが安心して過ごせる場

② 学習支援

宿題、復習、学び直し、個別学習などに対応し、高校生・大学生スタッフを中心とした伴走型支援を行う。子ども一人ひとりの状況や興味に応じた柔軟な学びを提供する。

③ 子ども食堂機能

食事や軽食の提供を通じて生活面の安心を支えるとともに、食卓を囲むことで人との関係性を育む。

④ 不登校支援

学校復帰のみを目的とせず、安心して過ごせることや人とのゆるやかなつながりを重視した支援を行う。

④ キャリア教育・社会接続

地域の社会人や企業と連携し、職業講話や体験機会を提供することで、子どもが将来を豊かに具体的に描けるよう支援する。



⑥ 留学生との交流

留学生との交流機会を設け、多様な文化や価値観に触れることで、国際的な視野とコミュニケーション力を育む。

⑦ 若者主体の運営

高校生・大学生が主体的に運営に関わることで、子どもにとって身近なロールモデルを生み出すとともに、若者自身の社会参加や学びの機会とする。

【連携企業（予定含む）】

- 株式会社こんの
- キヤノン株式会社
- 花の店サトウ



この声とともに

令和4年3月30日に立ち上がった一般社団法人 CARNIVAL WORKS。

子ども達の居場所づくり、高校生や大学生の次世代教育、まちづくりなどなど多くのことにチャレンジし続けたこの4年間。この4年間の軌跡はたくさんの人と出会い、たくさんの人と丁寧に向き合った期間でもありました。関わってくれる学生スタッフ登録者も260名を超え、応援してくれる地域の方々もどんどん増えてきました。

正解がない中でとにかくみんなで動き続け、順調に見える一方で、うまくいかないことも数多くありました。

振り返ると、逆にうまくいかなかった時の方が多かったかもしれません。

学生と共に悩んだり

夜通しみんなで語り明かしたり

たまにはちょっぴり落ち込んだり・・・



そんな中、昨年度、自分たちの歩みと息吹を感じるべく、大和証券グループ様、ETIC.様、一般社団法人オープンデータラボ様のお力をお借りして【CARNIVAL WORKS ボランティアアンケート 2025】を実施し、学生が成長する姿やまちが変わっていく軌跡、人と人とが繋がっていく様子をデータと共に可視化することができました。

【CARNIVAL WORKS ボランティアアンケート 2025】



高校 3 年の夏頃まで将来どんなことを学びたいか、大学でどんな学部に行きたいかなど全く決まっていなかった。そんな時高校生 SOCIALACTION に参加させて頂き、企業の社長さんなどにお話を聞く回がありました。その時に地域のために活動している人たちのお話を聞き、とてもかっこいいと思ったし、私もその一員になりたいと考えるようになりました。その結果現在地域活性化やまちづくりなどについて勉強する大学を選び、現在 NPO などでも活動をしています。あの時、プロジェクトに参加し、お話を聞くことが出来たからこの選択ができたと感じており、本当に大きな変化になりました。(大学 2 年生)

初めてちゃんと自分を認めてくれる大人に出会えたと思ったし、初めて尊敬できる大人に出会えました！！！！自分の将来の夢を少しずつでも確実に明確化できました！(高校 3 年生)

様々な活動に参加させて頂けたおかげで、貴重な出会いがたくさんありました。自分自身でも成長できたと思うことばかりで、少しだけ自分に誇りを持てるようになりました。落ち着いたら色々な活動についてお話を聞かせていただきたいです！本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます(高校 2 年生)

子ども食堂のボランティアとして活動する中で、人見知りの子どもの関わり方に悩むことがありました。こちらから質問したり、話しかけたりしても、思うように距離が縮まらず、どう接すれば良いのか試行錯誤を続けました。その経験を通して気づいたのは、子どもたちが求めているのは必ずしも積極的な会話だけではないということです。無理に関わろうとするよりも、子どもたちの気持ちに合わせて、同じ空間でゆっくり時間を共有することが何より大切なのだと感じました。大きなことはできなくても、子どもたちの気持ちと時間を共に過ごすという形で子どもたちに寄り添うことがボランティアの役割だと感じました。(大学 3 年生)

いつも本当にありがとうございます！たくさんの方がいる中で対象の人はもちろん、ボランティア 1 人 1 人と向き合っていてほんとうに凄いなと感じています。ボランティアする側もそれを受ける側もお互いが気持ち良く活動できる環境の秘訣かなと勝手に思ってます！(高校 3 年生)

既存の組織や活動では思いつかないような、柔軟で斬新な視点やアイデアを持ち込み、活動に新しい風を吹き込むことができていると思います。特に、若い世代のニーズやトレンドを反映したイベント、SNS を活用した広報活動などは、学生だからこそ高いクオリティで実現できることが多いと思います。(企業・行政・まちの声)



リサーチと共にとっても多くの声が届きました。

自分自身の成長や子どもと向き合った気付き

将来のことや仲間と出会えたこと

そしてまちがかわったこと。

4年間の歩みの中に確実あったものが、この声なんだなと実感しました。

人が出会って

場ができて

誰かの笑顔が少しだけ増えていく

丁寧に場を営み、丁寧に人と向き合いながら、

また新たな1年を「この声とともに」しっかりと歩んでいきたいと思えます。

令和8年度もどうぞ、宜しくお願いいたします！！！！

令和8年4月26日

一般社団法人 CARNIVAL WORKS 代表理事 江藤大裕

